

大学

文学部教育学科

図画工作科教育法Ⅱ

山本和久教授

多彩な造形表現を実践しながら
子どもの可能性を広げる芸術を深く学ぶ。

イタリア北部のレッジョ・エミリアでは、子どもの可能性や創造性を引き出すためにアートを取り入れた幼児教育に力を注ぎ、世界的に注目を集めています。そうした芸術に関連した教育理論を学ぶとともに、学校現場で求められる実践力を養うのが「図画工作科教育法Ⅱ」です。3年次に開講される専門科目であり、1・2年次に学んだ描画のモダンテクニックや色彩理論などを応用して多様な造形表現の制作・演習に取り組みます。指導教員の山本先生は「図画工作では、子どもたちの個性を受け止める『まなざしの共有』が大切です。子どもたちと対話しながら造形表現の多様な技法を教え、一人ひとりの表現力や創造力・想像力、思考力を伸ばしてほしいと教員志望の学生に期待しています」と語り、子どもたちの知力や心を豊かに育む図画工作の重要性を学生に伝えています。



愛知淑徳の授業

生徒・学生の意欲に応え、一人ひとりの可能性を広げる愛知淑徳学園のさまざまな授業を紹介いたします。

中学校

愛知淑徳中学校

数学

田中ゆみ教諭

数学への知的好奇心を刺激し、
将来にも活きる多様な力を育む。

数学を学び始める中学1年生の授業では、基礎となる概念や原理などを教えるだけでなく、数学を「楽しい」「おもしろい」と感じる知的好奇心を刺激することにも注力しています。たとえば、単元ごとに導人を重視し、身近な生活との関連や歴史などの雑学を交えて解説。生徒が数学に苦手意識を持たず、主体的に学んでいけるように、興味・関心を喚起させる工夫をしています。数学教員の田中先生は「数学は、課題を論理的に解決していく力、自分の考えを整理してわかりやすく伝える力、アイデアがひらめく発想力などが鍛えられる教科です。生徒の皆さんには、ただ正解を求めるのではなく、自分で粘り強く考え、筋道を立てて答えを導く姿勢を身につけてほしいと期待します」と生徒の将来を見据え、学力にとどまらず「生きる力」を育むことも大切にしています。

